石原伸志・魚住和宏・大泉啓一郎 編著

『ASEAN の流通と貿易―AEC 発足後の GMS 産業地図と企業戦略―』

成山堂書店　2016 年　240 頁　2,800 円

秋山　憲治

2015 年 12 月 31 日、ASEAN 経済共同体（AEC：ASEAN Economic Community）が発足した。そして、東西経済回廊や南部経済回廊などインフラ整備がなされ、モノや人の行き来が活発になり、ASEAN が生産拠点および消費市場として経済成長が期待されている。本書は、特に、タイやラオス、ミャンマー、カンボジア、ベトナム、さらに中国雲南省と広西チワン族自治区を加えたメコン川流域の GMS（Greater Mekong Sub-region）経済圏の新たな生産拠点としての役割に注目している。

GMS 経済圏は、中国の人件費の高騰、尖閣諸島をめぐる日中関係の悪化などをうけ、日系企業は労働集約的産業を人件費の安い後発 ASEAN に移し、中国一国への依存のリスク回避、すなわちチャイナプラスワンを図った。最近では、先発 ASEAN であるタイの経済成長に伴う人件費高騰や人手不足をうけ、タイに隣接するカンボジアやラオスなど後発 ASEAN に労働集約的な生産工程を移す、タイプラスワンのサプライチェーンが形成され始めている。

本書は、今後、新たな生産拠点と期待される ASEAN 経済の現状について、経済概況、ロジスティクス、経済回廊、工業団地、輸出入通関といった基本事項を押さえ、家電や自動車、繊維、食品、小売など注目される産業の現状や課題について、第一線で活躍しているあるいは豊富な現地ビジネスの経験を持っている専門家により論述されている。業界の歴史や裏話なども含まれており、リアリティーを感じられる内容となっている。

以下、目次を記述し、概略を紹介する。

はじめに
略語一覧
第 1 章　ASEAN 経済の現状とビジネスチャンス
第 2 章　ASEAN におけるロジステックス発展の経緯と現状
第 3 章　家電産業をとりまく環境
第 4 章　ASEAN の自動車産業の現状と今後の方向性
第 5 章　ASEAN の繊維産業の現状と課題
第 6 章　ASEAN の加工食品市場
第 7 章　ASEAN の小売業
第 8 章　ASEAN の工業団地
第 9 章　陸の ASEAN をつなぐ経済回廊
第 10 章　GMS 主要国の輸出入通関手続き
巻末資料　繊維産業におけるチャイナプラスワン候補国と中国の概要、生産背景比較
索引
執筆者一覧

現在、ASEAN の GMS 経済圏は、急速に成長し変化している。本書の執筆は、2016 年 3 月末時点のデータや情報に基づいていると記載されているので、今後、新しい経済状態や経済進展に基づき更新されることを期待する。

また、本書は、日系企業を中心に論述されていると思われるが、中国の世界戦略である「一帯一路」やその関連金融機関である「AIIB」など、当該地域への中国の影響力は非常に大きいと考えられる。当該地域への中国あるいは中国企業の動向について知りたい。また、欧米の先進国企業、さらに、シンガポールやタイなど先進 ASEAN の企業などとの状況や関係などについても詳しく知りたい。今後の分析に期待している。

米国の TPP 離脱が現実となった中、今後、アジアの地域連携は RCEP（東アジア包括的経済連携）が重要な役割を果たすことが予想される。RCEP は ASEAN＋6 の 16 ヵ国が参加し、交渉の指導的役割を演じるのは中国や日本と考えられているが、日・中の対立や交渉が硬直状態となった場合、ASEAN10 ヵ国が中心的な役割を果たす可能性も考えられる。今後、ASEAN の動向に注目することが必要である。

以上、本書は、ASEAN の GMS 経済圏の現状と課題を中心に実務的内容に富んだ著作である、従来の研究者による書とは一味違った新鮮な内容である。実務的な研究書を求める社会人や研究者、学生に興味深い書物となっており、推薦する次第である。

（あきやま　けんじ　神奈川大学経済学部教授）